

## 8月行事予定

- ・8月10日(月)～16日(日) デイサービスお盆お菓子週間
- ・14日(金) 地域医療研修
- ・28日(金)～ 看護学生実習受け入れ
- ・遠山医院 回診 毎週火曜日
- ・荒川中央クリニック 毎週木曜日

※全国各地で新型コロナウイルス感染者数が増えているニュース報道が聞かれています。今月も、施設内での行事に限定させてもらっています。

## 『広報編集委員』ご紹介！ ～広報紙編集作業の裏話～

今回の法人広報誌「悠久」の表紙は、『グループホームたかつぼ』が飾らせていただきました。実はこの写真を撮影するために、2日間の時間を要しました。1日目、40分の準備と撮影に20分。数十枚撮った写真も、目線や瞳を閉じてしまっていたり。これだ！と、やっと出来あがった写真も印刷してみると、カメラが古かったせいか、少しピントが…。2日目、気持ちを新たに再度挑戦。利用者みなさんも、笑顔いっぱい無事写真撮影終了となりました。

お題は「法人ロゴマーク披露」1日目はロゴマークを前面に撮影しましたが、グループホームの職員の計らいで、1日目の構図だと、利用者の顔が小さくなる。利用者を全面的に前に、前に…。そんな気遣いもあり、利用者もニコニコ輝いた表情で撮影することができました。1日目のように目をつむってしまう失敗がないように、連写連写で300枚の写真の中からベストショットを選びました。

そんな広報編集作業に携わる職員は、どんな思いでその活動を行っているのでしょうか？  
介護業務や他の仕事が忙しいのに、編集作業は、直しやダメ出しなども多く、気持ち的に滅入る…。なんて人も少なくはないはず…。そりゃあ、たいへんですよ、通常の介護業務の他に時間を割いてやっているんですから…。

私は、入職して4年目くらいに、2日間広報紙編集の研修会に参加させてもらったことがありました。その課題で「施設で作っている広報紙を一部持ってきてください。」と言われ、提出した広報紙の感想、新聞社で勤めていた講師の第一声が、「こんな写真だけ並べて、やってます的な、何十万円も使って、ゴミ作っているのか！」でありました。参加した2/3くらいの施設の評価が散々なものでした。『何を伝えたいのかが伝わってこない』『切り抜かれた写真に「うわぁ～きれい」「おいしそう」の吹き出し“…。写真からそれを感じ取るのは読者であって、職員の押し付けであってはいけません。文字を入れるとしたら、いつ、どこで、どんな場面の一コマか、読者が知りたい情報。意外と職員だとわかっていることが、読者には伝えられていない。当然見栄えやバランスも大事。活字ばかりだと、見たくもなくなる。興味を持ってもらえる紙面づくり。

”伝える難しさ“ それは、日ごろの介護業務でもいえることで、職員の自己満足や利用者へ押し付けるものであってはいけません。言わずとも感じ取ってもらえる工夫。広報紙の編集にも繋がるように感じます。編集作業の上手な職員は、利用者のいいところや日ごろの介護士の工夫や頑張りもしっかり押さえており、限られたスペースに、イメージしながら、伝える工夫が出来ているようです。毎回編集作業に奮闘する職員みなさん大変ご苦労様です。そして、法人ロゴマーク以上に主役を演じてくれたご利用者様、とても素敵な表紙ありがとうございました。

